

水生生物の調査・観察・水質検査



平成18年度より毎年夏休みに、3、4年生児童が地域の農地・水・資源保全グループや公民館の支援を受け、校区内のため池、小川等で水質調査や水生生物の調査・観察会を行っています。校区内の小川の水質検査の結果は調査開始時に比べ随分改善されてきている。また、一連の取組と関連づけることで理科、社会科、家庭科、図画工作科等の教科学習の充実にもつなげることができていると考えます。

資源ゴミ回収



平成14年度より毎年、5、6年生児童と地域の糸我地区青少年育成会が共同で、2ヶ月に1回のペースで資源ゴミ（缶、ビン、紙類等）回収を実施しています。

本年度に入ってから、環境のため何か他にもできることはないかと児童会の役員達が考える中で、児童会からの発案でペットボトル回収も始まりました。ペットボトル回収は、糸我小学校児童会が中心となり、保護者や地域等の協力も得ながら行っています。

本活動を長期間続けてきた結果、本校児童並びに地域の方々の環境に対する意識、資源

リサイクルに対する意識が向上してきていると感じます。地域や学校でもゴミの分別の徹底が進み、リサイクルに回る資源ゴミが増えてきています。また、児童達も普段の生活の中でゴミのポイ捨てをしない児童は皆無で、学校でも大変まじめに清掃活動に取り組むなど地域や学校をきれいにしようという意識や、資源を大切にしようという「もったいない」意識が定着してきました。本校においては給食の残食量がきわめて少なくなってきたこともその成果ではないかと考えます。

また、本取組と関連づけることで社会科、家庭科、図画工作科等の教科学習の充実にもつなげることができていると考えます。

芋茶がゆの集い



昔の生活の苦勞を体験することで今の生活の便利さを知るとともに、食べ物大切さを
知り、食料生産に携わっている人々に感謝の念を持つことを目標とし、平成4年度より毎
年2月11日に糸我地区青少年育成会が主催し本校で実施しています。

この日は、本校児童、教職員、地域住民等の多くの人々が集まります。当日、児童達は
朝から近くの里山に薪を集めに行き、その薪を使って育成会委員の助けを得ながら芋茶が
ゆを炊いたり、餅米を蒸して餅つきをしたりします。また、芋茶がゆや餅を食べるため
に必要な箸も子ども達が竹を切ってきて自分たちで製作します。そしてその後、参加者全
員で体育館で芋茶がゆや餅を食し、食料やその生産者、今の生活の便利さ等々に感謝します。

伝統芸能の伝承



平成13年度より、伝統芸能の保存、担い手の育成を目標に、糸我地区の伝統芸能保存会が中心となり本校児童達に笛と太鼓の演奏を指導している。練習は毎年6月頃から休日や平日の夜に公民館や地元JAありだ施設内で行われます。

参加者は本活動が始まった頃は4年生以上の児童であったが、児童数の減少に伴い今は年齢制限がなくなり、1年生の頃より参加する児童もいる。練習の成果は、毎年本校の運動会や各地区のイベント、地域神社の秋祭り等で披露されます。

本活動は自由参加によるものであるが、子どもの頃より地域の行事等にこのような形で参加することは、地域社会の一員、担い手としての意識を形成するきっかけにもなり大変有益であると考えています。





和歌山県なのに花笠音頭と疑問に感じる方もいることと思いますが、なぜか本校校区では昭和の終わり頃（昭和61年頃）より、毎年地域の夏祭りや小学校の運動会で花笠音頭が踊り続けられています。いろいろ調べてみたのですがその起源はよくわかりません。

平成29年度に日本生命財団の協力の協力で踊りに使う花笠を新調したことを契機に、毎年運動会で踊っている、校内で下級生達に踊りをレクチャーしている本校6年生が7月に公民館で地域の方々にも踊り方をレクチャーするという取組を始めました。

本年度も地域の方々の夏祭りや小学校の運動会では児童、保護者、地域住民が入り乱れ盛んに花笠音頭を踊る姿が見られました。

本取組も、子ども達に地域社会の一員、担い手としての意識を形成するきっかけにもなり大変有益であると考えています。

自然探検隊



平成13年度より毎年夏休みに糸我地区青少年育成会が主催する、学校単独で行う修学旅行や合宿とは別の一泊二日の合宿です。小学校5、6年生を対象に参加者を募り、毎年行き先を変えて県内外の様々な場所で実施してきました。

今年は30名あまりの児童達が糸我地区青少年育成会の会員や本校教員の引率の下、7月末に福井県の若狭湾青少年自然の家に宿泊しその周辺で飯盒炊飯、シュノーケリング、海の生物観察会、自衛隊施設や引き上げ記念館見学、抹茶作りとお茶席体験等の様々な活動を行ってきました。

自然探検隊だけではありませんが、本校では児童達に様々な実体験をさせ、それを各教科・領域の平素の学習活動に機能的に結びつけていくことは、子ども達の質の高い深い学びには大変有益であると考えています。